

会員だより

※氏名の後の（ ）は退職年を示す。



千秋クラブ
伊藤 輝男(平26)

昨年6月に退職、通信建設会社でお世話になっております。

退職までの最後の7年間は単身赴任でしたので自宅から通える有難みを実感しております。入社以来、背番号は交換でした。クロスバから電子・デジタル交換機、新ノードまで幅広い経験をさせて頂きました。導入計画から保全までの分野がありましたが、一度も同じ業務は無く、覚えた頃には次の転勤と苦勞した感もありますが、何とか無事に過ごすことができました。改めて先輩、同僚等周囲の皆様のご支援に感謝申し上げる次第です。

最近では通勤帰りに寄り道コースを探して居酒屋探訪を実践しています。



大崎クラブ
佐藤 乙雄(平26)

ます。これからも体力とお金が続く限り、この道を極めていきたいと思っています。

契約社員を2年で早めのリタイヤ。今は、地元の某会社でパート勤務をしている。母の介護のために取得した「ヘルパー2級」が、利用者様の病院への送迎サービスに役立っている。「人工透析」「定期受診」「緊急受診」等車椅子のまま、あるいはストレッチャーで、お年寄りへの感謝と尊敬の気持ちで日々接している。また、契約社員1年目の時、間違って取得してしまった「大型二種」でスクールの運転士にも従事している。小学校の児童達を送迎しているが、とにかく元気で明るい。時には「5月蠅く」感じるほど。子供達の元気をもらい、子供達の輝かしい未来に夢を馳せる毎日である。今思う事は、とにかく、身体の元気なうちは働き続けたい。周りの先輩



小生田クラブ
川越 清子(平11)

も74歳とか75歳で幼稚園バスの運転士を現役続行中。私自身もあやかりたい。病氣、怪我がなければ十分可能な領域なのだ。畑で野菜作りも手がけているが、「晴耕雨読」の日常はもう少し先に延ばしたい。

平成11年に退職して16年が過ぎました。現役時代は毎日時間に追われて過ごした35年間でした。退職したらあれもこれもと思いながら何もしないまま時が過ぎ、地域にも馴染めないのに気が付き、何かをと思い、中途半端にしていたことから一つ一つ片付けようと、パッチワークでは60才までにタペストリーを作り、着付は講師の資格をとりました。

今は、クラフトバンドで生活雑貨やかごを作る資格をもらい講師として25名の人達と仲間作りをして、合間に短期の着付教室を開き、色々なことを地域の人達から学んでいます。



栗原クラブ
佐々木 毅(平13)

でいます。今年70才になり、節目に何かと思い75才までにパッチワークで2枚目のタペストリーを作りたいと思っています。今まで応援してくれた家族に感謝です。

NTT退職後、NTTグループ各社に御世話になり東日本大震災の年、3月末にサラリーマンを卒業しました。朝一のラジオ体操をBGMが無くても滑らかに進められるようになり、欠かさず行っています。リフレッシュ。

これといった特技もなく見よう見真似での稲作を手伝いながら日々を過ごしています。

これまでの仕事と違い、天候に左右され逆らうとすべ返しがあり気長に取り組む姿勢の大切さを教わりました。「短気は損気ですね」在職中は出張、転勤等で東北各地を歩いたことでマスコミに載る

ニュース、風景等を見ると懐かし
く思われ、頭のナビが忙しく活動
しルートの、所要時間等すぐ出ます。
ボケ防止になるのかな? 「退職者
の会」の事務局担当を仰せ付かり
現在4年目の真只中です。「退職
者の会」と共催でパークゴルフ等
が開催され旧交を温めながら、健
康維持に励んでいます。

時には、学習会等も行っています
よ。



福島地区電友会
渡辺 正春(平21)

NTT東日本を退職後、テル
ウェル東日本に3年3ヵ月在職し
ました。

63歳で退職し、寝たきりの母
を自宅で夫婦で介護してきました
が、昨年86歳でなくなりました。
私は59歳の時、それまで約40年
吸っていた煙草をスパッとやめま
した。

理由はあまりにもガン死する人
の多さを目のあたりにし正直恐ろ
しくなったからです。

それ以来1本も吸っていません。
その時期から毎日1万歩を日課
とし日々実行し、その結果として、
空家の多さを知ることができまし
た。

また、地元自治会(320世帯)
の役員(庶務を担当)として活動
し6年目となりました。

当初、仕事をしながらの地域活
動は時間的制限もあり大変なこと
もありましたが、現在では多くの
人を知ることができた反面、地域
の問題点と課題がわかってしまし
た。

地域そして社会を支えるあらゆ
る組織・団体が後継者不足に悩ん
でいるのが現状です。

この経験を通して地域のことを
知ることの重要性を痛感していま
す。

東日本大震災当日、私は仕事で
浪江町、南相馬市、相馬市に行っ
ていました。あと数十分行動が遅
れていたら犠牲者になっていた可
能性があります。

私達は自分が住んでいる地域の
人達をあまりにも知らなすぎなの
ではと思います。

向こう三軒両隣の夫婦のフル
ネームをわかつているだろうか。
大震災を経験し、地域に役に立
つ人間になろうと思っています。

また、公民館行事に月1回、電
友会活動に月2回程参加し諸先輩
の方々と親交を深めています。
菩提寺の役員を昨年から引き受
けました。これも役員のなり手が
なく困っている所です。

1昨年の秋には気のあう仲間9
名と静けさがなんともいえない晩
秋の尾瀬をワイワイガヤガヤみん
なで散策し鋭気を養ってきました。

福島県の松枝岐村(人口630
名)に1泊しました。昨春には国
立劇場で松枝岐歌舞伎を上演し、
江戸時代から続く伝統芸を継承し
ている原風景の残る素晴らしい地
です。

65歳からが黄金の人生と言われ
ています。しっかり地に足をつけ
人生を謳歌したいと思います。人
に歴史ありそして生きた証を残す
ために。



福島地区電友会
三森 陸美(平10)

齢70才の古希を過ぎ、この世に
生を受けた一人の人間として、亦、
一介の勤め人として如何にして生
きてきたかを、恩人・友人・親類
縁者・愚息に対し、感謝と生きて
きた証しを述べてみたいとの衝動
にかられ、今まで大事に保管して
いた資料を生かし、自分史を纏め
る事と致しました。

幼年期の思い出は漠然とした思
い出しかなく、記憶の糸を手繰り
しながら掘り起し、小中高時代は
アルバムを見ながら竹馬の友を思
い、社会人になり会社の合格通知
を始とし辞令書、各種訓練の終了
証書等個人的な物を出来るだけ蒐
集した資料(なぜ紛失せず手元
に残ったのかは、転勤の都度決し
て自宅に持ち帰らずに、スクラッ
プブックにファイルして置いたた
め)。

社会の出来事や電気通信の発展
の歴史等は、会社関係の各記念誌
や参考文献等を図書館・NHKな

どこから蒐集いたしました。

原稿をまとめ仙台の業者に持ち込み、見積もってもらいましたが、予定の金額にはほど遠く、断念しましたが色々とおアドバイスをいただきました。

知人に相談、福島 of 業者を紹介していただき、校正等を工夫すれば予定金額に近づくのでお願いすることにいたしました。

親戚からどうせ作るのなら読んでもらえるモノにしなさいと言われた。

原稿を印刷所に提出し3度の校正を経て約2カ月後漸く完成を見る。ネーミングは「でんでん虫のひとりごと」にいたしました。でんでん虫の絵は、姪に描いてもらいイメージどおりのものがしあがりました。

作成部数は300冊、費用は企業年金の約1年分を当てました。内容は思いつくまま記録し、転勤生活の思い出は、本荘・仙台霞ノ目・岩手久慈・福島・郡山・盛岡・岩手千厩での人々との出会いと、その土地ならではの食物を味わうことが出来ました。特に日本海

側の本莊では海の幸タラ・八つ目
うなぎ・バイ貝・岩ガキ・スズキや、
山の幸イワナ・ヤマドリ・シオデ
等の山菜・キンタケ等のキノコ類
又、太平洋側の久慈の産物はウニ・
アワビ・ホヤ・さけ、マツモ等の
海藻類、マツタケ・アイコ（ミヤ
マイラクサ）等の山菜、等々本當
に美味しかった有難う御座いまし
た。

完成後妻から、色々言われ反省しきり、結局自分史は男のロマン、女の不満となりました。

文中に登場して頂いた方々に対し、故人には哀悼を捧げますとともに感謝と御礼を申し上げます。

電電原町退職者の会
渡辺 弘寿(平元)

私は、昭和1桁の激動の時代を生き抜いてきました。この会員だより書くにあたり、振り返って見ると戦中、戦後、そして現在の平和な社会を生き抜いてきた事に、感無量のものがあります。

戦中に仙台逋信講習所に入り、

モールス信号を経験、20代後半は2省分割により、電気通信省に、その後電電公社、NTTと、めまぐるしい変化のなかで業務内容も次々と変わってとても大変でした。福島局を最後に平成元年に退職しました。

退職後は原町に戻り、地域の中で行政嘱託員や老人会の役員などを経験して地域と交流を図ってきました。

今は、趣味の篆刻をやっており、月2回の仲間の集まりを楽しくやっています。また、NTT・OB会のパークゴルフやグラウンドゴルフ旅行等の行事に参加して、若い人達から元気を貰い交流を図っています。

これから自分の健康に留意して、楽しく生きていきたいと思っています。



白河地区電友会
宗形 市蔵(昭59)

以前から温泉好きで時々入浴したいと考えているので本年も出掛

けたいと思つていました。そんなとき人生生涯の最後を長く患わず楽に「さよなら」できるように……と会津コロリ3観音に参詣すると適えられると何かの記事を見たので行きたいと娘に話したところ、連れて行つてやると言われ計画を立て旅館を選んで1泊予約した。混み合わない時季からか、すんなり予約できた。

当日（9月18日）は天気もまづまづで朝、自宅を出発。甲子峠を通り会津美里町の伊佐須美神社にお参り、中国観音、立木観音、鳥追観音を参詣し、観音前の門前売店に立ち寄ったとき売店の小母さんにコロリ3観音は3年続けてお参りすると効果があると教えられました。

柳津温泉の旅館に1泊し、ゆつたり温泉につかりました。

翌19日は斎藤清美術館を見て、続いて田子倉湖に行き周辺を眺め、柳津西山地熱発電所を見学帰途につきました。



花巻電友会
神山 佑治(平18)

退職後、「待ってました」とばかりに電友会の事務局に推挙され3期6年。更に会長2年、計8年間、会の運営に携わりました。

また町内会も然りで、地域の一人として体育部長他諸々の役員を仰せ付け、各種行事等でちよつと忙しい思いをしましたが、反面、退屈せず楽しく充実した日々でした。

ところが昨年7月の健康診断で「肺に良からぬ影が見える」とかで精密検査。X線、CT、MRI、PET等の検査結果「肺癌」と宣告され手術。くしくも昨年暮れに退院しましたが、今は妻の小言と抗癌剤の服用に悩まされながら自宅療養中です。でも、できれば早く体調を整え会員の皆さんとの小旅行やパークゴルフを楽しみたい気持ちと共に退職後開墾?した100坪程の家庭菜園で無心に土いじりをしたいと考えている処です。



遠野地区電友会
菊地 ツナ(平元)

80才も過ぎ遠隔地に居りますと色々な行事がありましても仲々出席をためらうようになります。昨年元上司及川裕充さんの旭日双光章授章祝賀会が開催されその席で祝舞というおさそいでしたが何分にも退職後26年もの月日が立ち脳が眠り自信がいままお受けしました。これは人生の思い出人生最後の踊りと思いい0日程練習しましたが足腰がままならず81才の踊りで誠に粗末でしたが頑張つて踊りました。その後N T Tと退職者の交流会がありましてこれまでに生かされた事を皆様に感謝しながら出席しました。交流の輪に入り年齢も忘れ足腰の事も忘れ若返りに踊ってみました。やはり仲々うまくいきませんでした。皆さんの笑顔と拍手にこんな機会に恵まれ幸せ・思い出多い1年でした。来年も又ねと約束した所で。今日1日を大事にと思いい楽しい交流会を後にしました。



水沢地区電友会の会
千葉恵保子(平25)

退職間直の或る日、息子から「退職したら何をするの」と聞かれ、「まだ、何も考えていない」と答えると「幼稚園の頃、寝る時いつも話してくれた童話を書いたら」と言われ、独学の拙い文章で書き、県の芸術祭に応募した。毎年、佳作にはなるが、今一つ、芽が出ない。「孫が生まれるよ。読ませたいでしょ、母なら出来る!」と、初孫、の一言でほんやり眼の目が覚めた。

何とか、ランクを一つ上げることが出来た。親の啓発を上手く引き出すと言うか、おだてに乗りやすい私の性格を良く知る息子に囁かれ、乗せられて書く楽しさを知った。

退職して3年目、首や肩こりをしないよう今年も1つ上の賞を目指し初孫に読ませたい一心で、せっせと童話を書き溜めている。



宮古地区電友会
伊藤 均一(平23)

「東日本大震災」の時に定年退職を迎えました。退職後の2年間は、ボランティア活動の手伝いと、N T Tソルコでのパートタイム(お客様対応)を約1年間務めました。

その後は、子供のころ好きだった「宇宙」の勉強に向け放送大学に挑戦し2年間学びました。しかし、頭に入らず断念。家内が退職祝いを用意した20 cmの反射望遠鏡は冬眠中の状態です。時間があるので再チャレンジしたいなと思っています。

健康の維持に向け、宮古市のスポーツクラブを利用したり、散歩では「インターバル速歩」(3分毎に早足と遅足を交互に繰り返す)を取り入れています。

現在は、宮古地区の退職者の会事務局長として電友会と共に活動をしております。

月数回のゴルフと読書、囲碁、映画等で楽しんでいます。「日々

好日」で過ごせるのも皆様のお陰と感謝しています。



北上電友会
高橋 孜(平13)

早いもので退職してから14年が過ぎました。町内会から、退職を待っていたかのように、役員の依頼があり、総務、交通安全対策の役員を引受け、8年間務めました。今でも、小供みこし、防災訓練等の行事には出来るだけ参加し町内会のみなさまと交流を深めるようにしています。糖尿病のため毎月1回病院で検診しており、先生から運動を勧められ、1日1万歩を目標に、朝、夕方の2回散歩します。退職後グラウンドゴルフサークルに入り、火曜日、土曜日、週2回わきあいあいと行っており、年4回サークル内の大会、県大会にも参加しております。

これからも、老化防止、健康維持のためにもできるだけ続けていきたいと思っております。



弘前地区電友会
内山 清栄(平23)

昭和42年千葉県の市川電報電話局に採用されて、平成23年NTT東日本一青森で退職するまで無事44年間勤める事ができたのも上司、先輩、同期、後輩の皆様方のお蔭であると感謝をしています。昭和42年頃は、自動改式や積滞解消で開通工事に明け暮れていました。昨日のように思い出されます。又、退職時は東日本大震災が発生し歴史的にも忘れられない出来事がありました。退職後の現在は、次の4つの活動をしています。1つ目は、最後の業務であった災害対策担当の経験を生かして、防災意識の向上と自主防災組織の拡大に向け青森県防災士会の一員として活動しています。2つ目は、高校まで続けた、陸上競技の経験を生かし35年前日本陸上競技連盟の公認審判員の資格を取得、いろいろな競技会の役員として頑張っています。自身も年に4、5回マラソン大会に出場し、体力の維持に努めています。

ています。3つ目は、地域のねぶた愛好会の会長として、地域の発展と青少年の健全育成に寄与することを目標に、弘前ねぶたまつりに16年連続参加しました。現在17年連続参加に向けて準備を進めているところです。4つ目は、地区電友会の活動です。理事への就任依頼があり少しでもお役に立てればと引き受けました。以上の活動を体力の続く限り続けて行きたいと思っております。人生ゆつくり、のんびりが良いと言われています。それを目標に余生を送って行きたいと思えます。



八戸地区電友会
木村 信勝(平14)

退職して12年が経ちました。光陰矢の如しです。退職してからは家庭菜園に熱中してました。種蒔きをしそして収穫する。それを妻が腕をふるうにぎやかな食卓。子供や孫達の喜ぶ様子を見ているとより一層幸せを感じ、明日への農作業に力が入ります。



霞城クラブ
細谷 悦信(平23)

旧職場の人達20名位で年1回長寿を祝う会の世話をしており県内外から20数名の人が参加し近況や昔の職場の思い出に華が咲き、より一層なつかしさが沸いてきます。そして来年は米寿の人、古希の人のお祝いをしましょうと締め乾杯で約束し合いました。満足し喜んで帰路に着きました。

私は4月から電友会に入り6月には、総会があり皆さんとの懇親会を楽しみにしております。その後の行事もいろいろあると伺っております。特に新春トランプ大会、昔昼時間に、飯を食いながらのトランプを思い出しながら、昔とった杵柄がどうなってるか、楽しみです。

震災があつた年に退職し早4年が過ぎました。お陰様で元気に週2日の仕事と農業そして遊びに日々を楽しみ生活しております。農業は野菜作りと果樹のさくら

んぼ、特に野菜は自給と娘と孫への宅配で面目を保っている次第で「美味い」が活力の源です。「さくらんぼ」は枝の剪定、下草の除草、病害虫の駆除や農機具のメンテナンスなどがあって収穫を迎えます。どの作業も苦楽を伴い工夫が必要ですが高所作業は危険がいっぱい。農業する事で汗をかき体力増強があり健康に自信が持てる有難い環境に感謝です。

遊びはゴルフ、卓球と水泳そしてカラオケ等ですが何れも実力は一味足りません。最近は船釣りを復活したくてジタバタ、妻に一喝されそうと遠慮を優先しています。熟年老境を楽しみ、自分の姿を見極めたい。



電友会さくらんぼ
後藤 正廣(平27)

会社から解放され、俺の時間が始まってから50日。時間に拘束されず何でもできる。そんなわけで近況ですが、「自分の手で打ったそばを食べたい。」の思いで、そ

ば打ち講習会に通っています。

まだ始めたばかりで右も左もわからないと素人。座学で教わった内容に、「ふむふむ」と頷くがいざ実習になるとまるで手が動いてくれない。水まわしから手ごねてそば玉をつくる。麺棒でのし正方形に一定の長さにしたたんで包丁で切る。師匠の手さばきを見よう見まねでやるが、結果は太さバラバラの個性あるそば。打ちあがったそばを茹でて、受講者同士で評価しながら食べる。太さバラバラでもおいしいの歓喜につつまれる。

そばの三たてという言葉があるそうです。つまり粉の挽きたて、打ちたて、茹でたてだ。おいしく食べるそばの条件だ。たかがそば、されどそば、奥深いんだなあ、改めて思いました。趣味が高じてそば屋さんになった先輩もいるという話を聞いたことがありますが、まずは自分で打ってバラバラでなく整ったそばを食べることを目標にして講習会へ通っています。



村山クラブ
穂葉 敏一(平13)

早めの退職から、14年目になりました。何とかなる、ならないのも世の中でしたが、ある宿舎の管理人、小学校勤務の6年間、先生と呼ばれ卒業しました。その後、900年から10000年前のロマンを求め遺跡発掘調査作業をさせていただいております。今年は縄文時代。昨年は土偶(人体・現代風のオカリナ笛等)にめぐり会った時は鳥肌が立ちました。地域においては、町内会副会長2年、会長2年目です。

また、地域のサロンを中心に笑いと失敗のある「手品」をさせていただいております。家庭においては母親介護、孫2人と賑やかにしております。何年たっても良く作れない家庭菜園で楽しんでいきます。何はともあれ、健康に注意し、地域や皆様との交流等を大事にしていきたいと思えます。

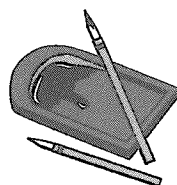


電友会おいたま
長谷川 正(平23)

早いもので退職して4年2か月が過ぎようとしています。統計上の老人人口の仲間入りももうすぐです？笑い？現在の私の生活は「晴耕雨読の生活」を楽しんでいます。晴れた日の朝は4時前に起き太陽とともに畑で農作業をして収穫物を近くの直売店に届け販売しています(春の山菜・秋のキノコも!)。又、時間が空いたときはスポーツジムで筋トレ・水泳・エアロ・ヨガなどで汗を流しています。夜は地区の各種ボランティア・コーラスなどで奮闘中です。当然飲み会もあり？現役の時より忙しい毎日です。今年の冬も大雪でしたが私は雪が大好きで毎日のように山々に入り込みテレマークススキーで夢のようなパウダーを滑っています。最後に、これからも家族や仲間との生活を大切に健康で充実した生活を送ってければ幸いです。

会友コーナー

文芸欄



俳句

福島地区電友会

病む妻を癒す如くの冬の虹
点滴のゆつくり落ちし薔薇真つ赤
堤防に佇み眺む雁の悼

関戸 武

満開の桜まとめて松本城
花に酔い酔いとつを減らしけり
春悲や患者呼ぶ声瘖高く

加藤 良栄

三森 陸美

先頭を 交互に替り 鳥帰る
昨年の 除染の跡に 草萌える
母の日に 意外の花の メッセージ

八戸地区電友会

佐々木敦子

高々と抱き上げし子に春の風
バス停に海抜表示 薄暑光
夕映えや向きを同じに浮寝鳥

五ツ橋クラブ俳句同好会

青山 誠一

コスモスの我れに合奏したるなり
うしろ姿の多き映像秋遍路
流水をとどむ島崖秋の声

赤木 善男

尺八の音に寄せ返す春の波
伽羅路の香り濃き味家の味
冷麦や旬野菜の具の香り

斎 仁一郎

門火焚く一番星は妻の星

病室の窓にあふるる秋の雲
旅先を決めかねてゐる新茶汲む

佐々木栄一

コンビニの弁当二つ秋の暮
秋の夜や黙っていても二人かな
秋蝶の哀れ同胞野に朽ちて

菅原 了二

反芻の牛の背に乘る秋の蠅
燃え盛る満天星紅葉庭圧す
若者は平成生れ芙蓉枯る

富樫 瞭

拝殿の太き柱や風薫る
菜の花やそろりと抜ける黒き猫
短夜や夢の再会ままならず

川柳

千秋クラブ

柏谷 武

母の日に電話だけでもいいじゃない

DNA悪い癖だけよくも似る
握る手に会話なしでも通い合う

五橋川柳会 会員作品抄

禁煙の誓い守った三日間
紙芝居昔なつかし鐘の音
傘忘れ出迎えた妻ありがとう

赤木 邦夫

短めの祝辞がよいと拍手され
晴れの日も脇役でよいカスミ草
足裏に重荷支えた自負がある

金澤 克人

復興を祭り太鼓が威勢づけ
使い切る覚悟で五年日記買う
自分史に小さな見栄をはっておく

小柳 芳雄

掃く人の心が見える筈の目
読経止むしじまを埋める蟬時雨
もう母に嘘はつかないことにする

齋藤 弘一

見たい夢自由に見れる枕買う
あれからは翼たんだまま生きる
まだ生きているかと調書だけはくる

富樫 辰夫

短歌

五ッ橋クラブ

真新しき黒き墓標は西空へ
流れる雲を写し終えたり

川上 清

手を膝に石段のぼる老い妻を
元日の陽のぬくく包めり

老い妻の誕生祝いと雪の降る
山あいの湯宿に長靴を脱ぐ

詩

卓球三羽鳥

盛岡電友会 堀根麟太郎

小学校時代は
暇さえあれば
卓球で遊んだ
授業の合間の
休憩時間
私たち三人は
講堂の卓球台へと走る
卓球三羽鳥と言われた
私たち三人は
八十を越えて今尚元気だ
町医者 of 康之さん
建築士の丹ちゃん
そして元トンツ屋（電報屋）の私
卓球が生きがいとなって
今私の命をつないでいる
ああ幼なじみの
卓球三羽鳥よ
これからも元気に
長生きの競争だ
(本名 堀根 英司)



随想



友とうどん



千秋クラブ 工藤 敏夫

1月24日の秋田さきがけ読者の声欄に稲庭うどんとかかわりある記事が載っていた。稲庭うどんは秋田県南の雪深い風土の中で山あいの湧水と良質の小麦と食塩を用い150年も一子相伝の味わいを練る。1本1本縛って延ばすの手づくりで作られる。平べったい形が特徴で麺の中に気泡が含まれてるので食感が滑らかで讃岐うどんなどと日本三大うどんといわれている。三大うどんの定説はないそうだが讃岐と稲庭は、当確の見方がつよい。私はもう一つ名古屋のきしめんを加えたい。

夏の芋灯の観光客からは「稲庭うどん食べさせてくれる店は何処」と聞かれることが多い。地元秋田は勿論県外客にも愛されている。勤続30年記念に関西へ旅行した時、大阪道頓堀の食堂で「旨いものは」と聞いたら即「讃岐うどんや」ときたので注文した。だし汁が透きとおる薄味だったが秋田では味わえないおいしさだった。20代に三重県の鈴鹿学園の訓練生だった時、実習で名古屋の広小路電話局のA型自動交換機の建設工事に従事した。大須観音様近くの宿舎から通っていた。休みのときには境内の食堂で味噌煮込みの幅広いうどんを食べた。腹のすく年頃だったのでとても旨かった。それがきしめんだった。

さて読者の声に投稿された方は、秋田とはほど遠い四国高知の81才の男性です。青春時代の4年間秋田大学で学生生活をおくった筆者の秋田への想いの強さが文章から伝わってきた。自分が受けた心の温さを自分の胸中にもとどめておかないで秋田の方にも知ってもらいたいと投稿されたことに秋田県民としてとてもうれしく感じた。また人情味のあふれる出来事と思った。

『稲庭うどん通し温かい秋田実感昨年暮れ近所高知のスーパーで稲庭うどんを見つけた。飛び込んできた稲庭の文字に、ふと旧友の郷里であることを思い出した。昭和30年私が秋田大学の学生だったころ秋田市市内の下宿先でその友と一緒にいた。長い間ごぶさしており何だか懐かしくなって胸が躍った。だが連絡を取るすべがなかった。そこで無理を承知

をお願いしてみた。商品を購入し製造元の会社に友の消息が分かったら連絡してもらえないかと一筆したためた。そうしたらすぐに返事をいただけた。

残念なことに友は17年前に亡くなり数年後に奥さんも他界。子供たちは県外にいます。時間がたち過ぎていた。

製造元からの手紙には、寂しいご連絡になりましたが秋田での日々を思い出していただけたことを感謝申し上げますと書かれており10束の稲庭うどんも添えられていた。頼んだのは当然なのに。文面を妻に読み聞かす声が何度も途切れた。次郎物語を好み、空手も好きだった。そして酒屋唄でいいのどを聞かせてくれた友。秋田は今も温かいね』

生かされて

五ツ橋クラブ 川上 清

巡るみ寺に礼をいう旅

平成3年、第2の職場を退職し、白衣を着て歩き始めた。その動機は、松原泰道老師(臨濟宗仰家)の巡礼は「あなたが今日まで忘れていたあなた自身を発見できるでしょう。人生の新たな出発の手がかりや人生のほんとう

の歓びが何であるかを見出すことができるでしょう」との言葉だった。千葉県満願寺巡礼の会に入会して学び、多くの人が先づ巡拝するのは百観音堂場（西国33、坂東33、秩父34堂場）と聞き、古里に似た秩父に思いは走った。仏様のお計らいか、この年に秩父巡拝があると聞き、胸を躍らせて参加した。秩父霊場（埼玉）の巡拝を終えた感動は、もう一度巡拝したいの一言だった。次に巡拝したのが最上（山形）、次に会津・仙台・坂東（関東の1都6県）・奥州（宮城と福島と岩手県）・鎌倉（神奈川）・西国（近畿2府5県）等を結願し、平成5年に作られた「仙台の巡拝の会」に入り、千葉は退会。次に巡拝したのが三陸霊場（宮城、岩手）だった。後日、阪急旅行会社より、三陸霊場の先達（宗内役）の依頼があり、会として検討した結果が先達をする事になり、3泊4日で、関東圏の方々を案内し喜ばれた。その後「仙台巡拝の会」は解散したので、いわき巡拝の会に入会し、いわき霊場（福島のは浜通り）や、北海道（道一円）。国東六郷満山（大分）を巡拝した。この頃から、お釈迦様の霊地巡りが話題となり、平成11年に実施された。釈尊生誕地のネパールのルンビニー・悟りを開かれたインドのブッタガヤ・初説法されたサルナート・

涅槃の地のインドのクシナガラを2週間で巡拝し、生をうけて、良かったとつくづく感じた。その後、信達霊場（福島県の信夫郡と安達郡）・庄内（山形）・女川（宮城）・信濃（長野県）・岩角（福島）を、妻も一緒だったり、ひとりだったりして結願した。他に個別に巡拝した霊場が37寺あるので、合計673霊場とご縁を頂いた事になるが、まだ途中までの津軽霊場は17寺、おくの細道霊場は、（福島・宮城・岩手・山形・秋田）で7霊場残っているの、来年の米寿までには結願したいと思っている。巡礼の札所には御詠歌があつて、本尊とか寺名、地名などが入っているので、参拝の折には本堂入口附近にご注意！

- ・補陀落や岸うつ浪は三熊野メ那智の
お山にひびく滝つ瀬（熊野）
- ・いで入るや波間の月を三井寺の
鐘のひびきにあくる湖（三井寺）
- ・前は神うしろは仏極楽のよ
ろづの罪をくだくいしづち（前神寺）
- ・世を照らす仏の験ありければ
まだ灯も消えぬなりけり（華嚴寺）
- ・霊山の釈迦の御前にめぐりきて
よろづの罪も消えうせにけり（霊山寺）
- ・亡びたる祇園精舎の跡に佇みて
聞くは一羽の鳥の声のみ

みちのくの知性を伝えた支倉常長を旅する



五ツ橋クラブ 小坂 仁

慶長遣欧使節400年記念の年、スペインとローマとの交流。常長の足跡を辿る旅。はからずも団長として参加した。常長への関心が高く全国から40名が成田で合流。国賓の間でのセビリア市長の歓迎。常長に託された400年前の政宗の手紙には驚きと感動。常長の墓がある川崎町長からメッセージを手交。ハボン（祖先が日本人）さんが650名も住んでいるコリア・デル・リオの町。畑や緑の畦道があつた。「仙台の間」での交流会に招かれた。祖先は日本人ツネナガの部下です。お逢いできてとても嬉しいです。車椅子の85才のハボンさん。私の手を握って放さない。日本とスペイン人の温かい血が流れた。介添役の曾孫の16才の少年は日本語大会で優勝したという。祖先を尊び、先人を敬う心に参加者一同胸が熱くなった。

東北人の末裔が幾世代を越えて歴史となつて息づいている。お茶を点てハボンさんと共に花輪を捧げた河岸の常長像。交渉が進まず悩みながら常長が登ったというヒラルダの塔

が見えた。常長が病気で1年間もお世話になったロレート女子修道院での交流会では是非訪日したいと満場の拍手。400年前、洗礼を受けた常長はローマ法王から市民権を授与貴族に列せられ感動に咽んだ。参加者一同そのローマバチカンの広場に集い常長を偲んだ。「支倉常長は理性と知性を備えた謙虚な日本人です」とセビリア議会、スペイン国王、ローマの元老院から称賛されながらも使命を達成できず傷心を抱きながら6人だけとなり仙台に帰ってきた。常長が命を賭けた交渉の背景には徳川幕府によるキリシタン弾圧が熾烈を極めてた。政宗の目的が実現されていれば石巻は横浜以上に繁栄したであろう。識者の一致した結論である。大使常長と180人を乗せたサンファン・パウテイスタ号が出航した石巻の「月ノ浦」を思い出す。誰も恨むこともなく、数千名の市民に歓迎されたスペインやローマでの感激のことも語らず、メキシコやスペインに残った人々のことも心の奥に秘めたまま帰国2年後、常長は52才で天に召された。彼の心を思うと切なく胸が痛む。日本とヨーロッパの架け橋となった常長の業績はいつの日か必ず再評価されなければならぬ。苦悩と葛藤に耐えながら清らかな信仰一筋に生きた常長の姿に、深い感動と共感を

覚える。真実一路に生きた人間発見の旅であった。

・常長の熱き思いを胸に秘め

波濤を越え ハボンさんにめぐり逢う

・君はまだ覚えているか 肩を触れ

ローマの街を歩いた日々を

雑学を学ぶ会ー木曜会ー



五ッ橋クラブ 若松 芳陽

NTT・OB8人の諸氏による「木曜会」と称する会が1995年10月にスタート。

当初は、毎月第3木曜日開催だったが、2008年5月から、隔月奇数月に変更し、集会の場所は、五ッ橋「樹の下で」午後5時に固定。

現在まで、20年間175回継続中である。

「健康で相互の親睦を図り、雑学を学ぶ」ことを目的とした懇談会である。

懇談会は、先ず、各人の好みで、ビールあり、酒ありの乾杯で始まり、誰とはなしに、最近のビックニュースで口火を切る。

政治学・スポーツ学・経済学そして雑学と話題は豊富な面々である。

先ず、政治学、中央政界の話題が中心で、特に政治家でない政治屋の悪党議員を次々とマナ板に乗せては吊るし上げ(議論し?)、「あの先生は、そろそろではないかな?」でひと区切り。

アルコールが程良く廻り、次は、スポーツ地元プロ野球楽天の戦況、データをもとに投攻守に亘り厳しく分析?力は晴れのち曇りか。そして、経済学では、年金・医療・介護各制度のこれからどうなる?の議論などなど。

時には、ワンペーパーを持ち寄って議論。アルコールの量と足もと(年令)を考えて2時間ほどでお開きとなる。

こんなざくばらんに何でも話し合える会「木曜会」現在仲間6人(無念、黄泉の旅へ2人)の絆をより強く、何時までも継続して行ける事を願っている。(木曜会総務担当)

わたしの宝物



電友あさか会 金田 清美

昭和20年8月15日正午、多くの日本国民が終戦をNHKラジオ放送で知った。「玉音放送」と呼ばれるこの重大放送は、実は雑音が

多くてあまり聴き取れなかったともいう。事前に録音された放送だったことに原因があるらしい。収録されたのは前日。ところがこの日戦争継続を望む一部陸軍の中堅幹部が放送阻止に向け反乱を起こしている。反乱軍は詔書の録音盤を奪うべく皇居を占拠するも遂に発見できなかった。やがて軍司令部がこれを鎮圧し、首謀者らは自害し反乱は未遂に終わった。この時命を顧みず録音盤を守った1人にNHK会長大橋八郎氏がいる。大橋氏は終戦を迎え公職追放されるが後に電電公社第2代総裁に就任。日本の通信事業の発展に尽くされた。

昭和37年7月13日郡山電話局自動改式時に男子交換要員が採用された。訓練主任指導下に属し、改式と同時に配転や職転となり各職場へ配属される。運用職場を離れるに当たり何か職場に遺したい。電電公社を代表する総裁に平和の「和」を揮毫していただいて「和」の精神をもって運用職場の皆さんがお客様サービスに徹していただきたい。そのことが訓練主任に要望された。簡単に取次できるものでなし悩んでいた。あるとき私に東京へ出かける予定ある? 「うんあるよ」「いいにくい話したが頼みがある。実は訓練生から電電公社総裁に『和』の一字を書いてもらいたい

要望がされたんだ」「なんとかなんねいがいい」「そんなことできつこねえばいい、どうやって面会するんだってわかんねいもの、話だけでは聞いておくばい」東京でのこと。言われたことが頭をかすめる、時間をみつめて本社番号を調べる。関係部門へ「総裁に面会したい」旨電話掛けること数回すべて意を通してもらえず、何回も電話した。相手もはたと困ったらしい。やっとのことで上役と電話が繋がり「面会したい理由を伝えた。しばらく時間が経ってから「本日午後4時総裁室へお出で下さい」張りつめていた気持ちが一瞬和らぎ深呼吸して胸を撫で下ろした。TAXを走らせ本社へ、控室で1人静かに待っていると大橋八郎総裁が入って来られた。私に深く頭を下げて「日頃電電公社のために日夜ご努力なされておられる貴方様に心から敬意を表します」と挨拶された。なんと素晴らしいお人なのだろう。田舎者、平社員に深々と頭を下げる姿に感動した。お偉い方という人は「こうあるべきなのか」総裁は



昭和37年 当時の電電公社大橋八郎総裁に揮毫いただいた「和」の額縁

私の顔を見ながら用件をお聞き下さいました。職場を去るにあたって温かい人間関係への願望を込めて何か職場に遺したい。その美しいお気持ちを承知いたしまして大変感銘いたしました。私は揮毫を書いたことありませんが「和」を揮毫し別便にてお送りいたします。皆さんのこの願いが郡山局のひいては公社全従業員の心の中に生かされてゆくことを祈ります。

7月25日手紙と共に郡山電報電話局運用課私宛へ親展で送られてきた。表具されて「和」と揮毫された額縁が職場に飾られていた。

民営化後は私が保管し現在自宅に飾っております。

カッコウの初鳴き



電友あさか会 黒川 幸正

郡山市の花はハナカツミ、市の木はヤマザクラ、市の鳥はカッコウです。10年程前からカッコウの声を初めて聞いた日を記録していました。観測地点は郡山市久留米の自宅です。泣き始める時間は早く、夢うつつの時もありましたが、大概4時半頃で長旅の安堵感が、

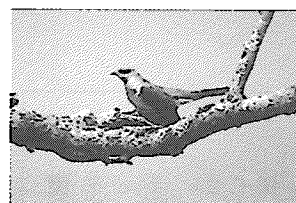
やっと着いたぞーとホッとした声にも聞こえます。

初鳴きの多い日は5月16日か17日で1年か2年おきに20日を過ぎることもありました。曜日では金曜日が多く土曜日は1度も無く、天気は晴れの日が断然多い。果たして今年は何日に来るのだろう、楽しみです。金曜日にしければ15日か22日となる。今年は4月21日から暖かく晴の日が続き、サクラ前線も一挙に北上して4月中に北海道に渡った。あれこれ考えれば15日に「カッコウ」「カッコウ」と鳴き声そのまま鳥名になった声を聞くことでしょう。そして、7月頃になるとケタタマシク鳴いたり、テレビのアンテナに止まっていたりする姿を見かけます。やがて、お盆の頃に静かになって、いつの間にか郡山を去って往くのです・・・

2015.5.5 記

カッコウの初鳴きの日(5月)			
年	日	曜日	天気
2004	17	月	雨/曇
2005	22	日	曇
2006	17	水	曇
2007	25	金	雨
2008	16	金	曇
2009	22	金	曇
2010	17	月	曇
2011	17	火	曇
2012	20	日	曇
2013	16	木	曇
2014	16	金	曇
2015	12	火	曇

追伸、5月12日4時49分、今年の初鳴きを



聞きました。今までで1番早い初鳴きの朝でした。今朝の新聞では台風6号が沖縄に近づき、九州から東海は朝から雨、関東以北も夕方から雨で、激しく降る所も...という予報です。台風の前に海を渡って来たようです。

「総務省」ICT健康モデル(予防)実証事業に参加して



青森地区電友会 館山 生木

昨年10月から平成27年3月まで行われた「総務省」ICT健康モデル(予防)実証事業に参加して、改めて自らの健康増進に努める良い機会となりました。

以前から健康管理には関心が高く、毎日体重や血圧を測定したり、ウォーキングをしていました。今回の実証はこれまでの延長でスムーズに参加できました。

今回の実証で、利用して楽しかった機能は、「歩数の記録管理」、「体重、血圧などの記録管理」、「ポイント獲得や商品交換」、「歩数のランキング」、「ウォークラリー」、「生活習慣

改善チャレンジ」などです。「歩数のランキング」では、参加者の方々が頑張っているのを見て、大いに励みになりました。「ウォークラリー」では、「松尾芭蕉の奥の細道」辿るもので、芭蕉が立ち寄った場所をクリアしていくのが大変楽しみでした。「生活習慣改善チャレンジ」では、目標体重の設定(65.0キロ)、目標歩数の設定(1日1万歩)、食事の改善に取り組みました。

現在も日々体重や血圧の測定、1日1万歩のウォーキング、週2回のスイミングなどを続けています。昨年10月から今年5月までの総歩数が240万歩をクリア。「松尾芭蕉の奥の細道」は、出発地「江戸深川」から17番目の目的地「金沢」に着きました。最終目的地(21番目)「大垣」まで完歩するのが楽しみです。

◆随想コーナーへの投稿について

随想コーナーへの投稿については誌面の都合上、左記内容にご協力をお願いいたします。

○掲載・・・年1回

ただし、投稿数が多い場合は次号に持越しとさせていただきます。

○字数・・・1200字以内厳守

○次回締切り・・・平成27年10月20日厳守

◎表紙写真の紹介

巨木（和賀山塊のブナ）

秋田県の東方に位置する「和賀山塊」の一つをなす白岩岳（1, 177 m）の中腹にある「日本一のブナ」の写真です。

林道の終点で車を降り、道なき道の原生林を歩くこと約2時間、目の前に大木が現れた時は疲れがいつべんに吹き飛ぶほどでした。

樹高24 m、樹周8・6 m、推定樹齢300年以上の巨木に圧倒されましたがもう一回行くかと言われれば「二の足」を踏むと思います。

写真提供／千秋クラブ 鎌田 久雄

●●● 編集後記 ●●●

◆多くの皆様のご協力で、77号の発刊にこぎつけることができました。ありがとうございます。会員の皆様のご活躍が行間にも溢れ喜ばしい限りです。

◆最近、日本列島のあちこちで大きな地震や噴火が頻発しています。これも東日本大震災の余波なのでしょう。家族間の伝言ダイヤル「非常持ち出し」「災害用備蓄品」等々、再度あの時を思い出し災害への備えを怠らないようにしましょう。

◆会報が届く頃は、暑さ真つ盛りの頃ですね。熱中症などになりませんよう、ご健康には十分気をつけてお過ごしください。

◆77号の巻頭言は、NTT東日本秋田支店様にご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

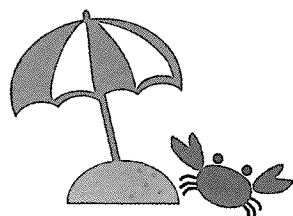
◆次号（78号）会報について

・発行時期 平成28年1月1日

・原稿締切 平成27年10月20日

なお、随想は お一人年一回とさせていただきます。いております。ご協力をお願い致します。

◆次号（78号）の巻頭頁作成につきましては、NTT東日本宮城事業部様にご協力をお願い致します。



東北電友会会報 第77号

平成27年8月1日発行

〒984 8519

電友会東北地方本部
仙台市若林区五橋3-2-1
NTT五橋ビル内

電話

022-212-1144

FAX

022-212-1144

印刷

株式会社 仙台紙工印刷

新入会員募集しています

電友会では、常時、新会員の受付をしています。

皆様のご友人で入会されていない方がおいでになりましたら、ぜひ、入会を勧めていただきますようお願いいたします。

【お問合せ・連絡先】

電友会東北地方本部 電話(022)212-1443